

授業概要			
科目名 医療倫理・死学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
<b>【授業の目的・ねらい】</b> 1. 医療にかかわる人としてのあるべき姿について学ぶ 2. さまざまな進歩する医療を知るとともに、避けることのできない人の生と死について考える機会とする。			
<b>【授業全体の内容の概要】</b> 1. リハビリテーションを必要とする人々の疾患と人の老化についてリハビリテーションスタッフとしてのかかわり。 2. 医療・介護の中でのスタッフとしての役割 3. 人の生命の誕生と避けることのできない死について。			
<b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 1. リハビリテーションを必要とする人々の疾患と人の老化についてリハビリテーションスタッフとしてのかかわりを知る。 2. 医療・介護の中でのスタッフとしての役割を知る。 3. 人の生命の誕生と避けることのできない死について考えることができる。			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	医療倫理・死学とは *但し、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。		
2	最近の医療の動向と人口の変化・課題テーマについて		
3	医療の安全・事故防止		
4	リハビリテーションを必要とする施設と災害発生時の対応		
5	情報開示		
6	個人情報の保護		
7	生活習慣病と老人の死		
8	ターミナル期と死をどこで迎えるか		
9	宗教と死		
10	医療の変化		
11	感染症		
12	自己の健康管理		
13	地域との連携		
14	リハビリテーションの今後の可能性		
15	試験の返却とまとめ これからの職業人として		
<b>【使用テキスト・参考文献】</b> テキストは使用せず。 参考文献 1. 日本経済新聞の医療・介護に関する記事 2. ダイヤモンド・東洋経済等の週刊誌の特集記事 3. 文芸春秋、NHK きょうの健康等の月刊誌の特集記事 4. ナーシンググラフィカ（メディカ出版） 5. 国民衛生の動向 2017/2018（厚生労働統計協会） 6. 感染対策のレシピ 矢野邦夫（リーダームハウス） 7. 死とどう向き合うか アルフォンス デーゲン（NHK ライブラリー） 8. 飛鳥へそしてまだ見ぬ子へ 井村和清（祥伝社） 9. 鎌田實の著書より「がんばらない」「あきらめない」他 10. 詩と死をむすぶもの 谷川俊太郎・徳永進（朝日新書）		<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 出席態度：20% 課題発表とレポート 10% グループワークの発表と記録 10% 期末試験：60%	

授業概要			
科目名 心理学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 基本的な心理学理論を理解し、人と人、人と外界がどのように関係しあっているのかを把握する。その上で、対人援助をしていく際の注意点等を理解する。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 心理学とは何か、人間の言動にはどのような特徴があるのかを考え、理解していく。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 対人援助をしていく上で、他者理解、あるいは自己理解の重要性に気づき、実際の現場でそれを生かせるようにする。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	心理学とはなにか		
2	知覚と認知		
3	学習（条件付け等）		
4	記憶（短期記憶・長期記憶等）		
5	発達①		
6	発達②		
7	青年期（自我同一性）		
8	性格①		
9	性格②		
10	自己		
11	家族		
12	心の病理①		
13	心の病理②		
14	ストレス		
15	全体的なまとめ		
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b> 「はじめてふれる心理学」</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> 定期試験 60点以上合格.</p>	

授業概要			
科目名 統計学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 1年 前期	必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 統計学に関する基礎的な概念や考え方が理解出来ることを目的としている。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 業務に就いたときに必要となる統計的手法によるデータの処理や分析法について、基礎的な概念や考え方を学ぶ。講義で扱う例題には、医療分野に関連した事例を多く取り入れている。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 実際の業務に就いたときに必要となる統計的手法によるデータの処理や分析法が扱えるようになる。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	統計学の概要		
2	度数分布とヒストグラム		
3	平均と標準偏差 その他の代表値		
4	加法定理と乗法定理		
5	ベイズの定理 ベルヌイ試行		
6	確率変数と確率分布		
7	平均（期待値） 分散		
8	2項分布		
9	正規分布		
10	ポアソン分布		
11	共分散と相関係数 回帰直線		
12	母集団と標本抽出 標本分布		
13	点推定と区間推定		
14	母平均の区間推定		
15	統計学のまとめと総復習		
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b> 統計入門</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> 8割以上の出席と、筆記試験の評価を80点、平常点を20点の合計100点満点のうち60点以上のいずれも満たした場合を合格とする。</p>	

授業概要			
科目名 情報処理	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数	時間数	学年・時期	必修・選択
25	45	1年前期・後期(9回)	必修 必修
<b>【授業の目的・ねらい】</b>			
パソコンの知識, 操作方法, オペレーション技術(ワープロ, 表計算ソフト), 及びインターネット, 情報検索やメール操作などの基本について学ぶ。			
<b>【授業全体の内容の概要】</b>			
臨床現場及び実社会での実践的に情報を処理する能力を身につけ, 基礎理解を基軸に, 更にコンピュータ応用の実践的側面, 理論的側面を養う。			
<b>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</b>			
授業の各回のテーマ・内容/授業方法			
回	内容・備考		
1	パソコン室利用・オペレーティングシステム①		
2	メール設定 オペレーティングシステム②		
3	Word2013 について		
4	Word2013 入力, 署名		
5	Word 2013 IME パッド, 入力, 保存, ヘッダーとフッター		
6	Word 2013 ページ設定, 印刷, 移動, コピー		
7	Word 2013 小テスト, 文書作成①		
8	Word 2013 文書作成②		
9	Word 2013 文書作成③		
10	Word 2013 文書作成④		
11	Excel2013 について		
12	Excel2013 再計算, 演算子, オートフィル		
13	Excel2013 関数: SUM, AVERAGE, MAX, MIN, COUNT, COUNTA		
14	Excel2013 関数: ROUND, ROUNDUP, ROUNDDOWN		
15	中間試験		
16	試験返却及び解説		
17	Excel2013 行の挿入, グラフ		
18	Excel2013 関数: IF①		
19	Excel2013 関数: IF②		
20	Excel2013 関数: IF③, AND, OR, NOT		
21	Excel2013 関数: IF④, RANK 絶対参照		
22	Excel2013 関数: VLOOKUP, HLOOKUP, COUNTIF, SUMIF 絶対参照		
23	定期試験		
24	テスト返却及び POWERPOINT①		
25	POWERPOINT②		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
30時間でマスター OFFICE 2013		定期試験 60点, 平常点 40点で 60点以上が合格。	

授業概要			
科目名 生物学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 1年 前期	必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 理学療法・作業療法学科において、解剖学や生理学などの専門分野の科目を履修するにあたり、それらの科目の基礎として細胞や遺伝子から調節や代謝の過程まで幅広い生物学の知識を修得することを目的とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 解剖学・生理学の基礎として生物学の幅広い分野を体系的に理解する。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 生物学の理解力が医学系専門知識の基礎として応用・発展できる。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	生物の概念、多様性と一様性		
2	細胞の構造と機能、細胞膜		
3	生体物質、酵素		
4	メンデル遺伝、ヒトの遺伝		
5	DNA が遺伝子の証拠、DNA の構造と複製		
6	タンパク質合成		
7	光合成		
8	好気呼吸、嫌気呼吸		
9	心臓、血液		
10	肝臓と腎臓		
11	神経系		
12	ホルモン、血糖量・体温調整		
13	生体防御		
14	要点のまとめと復習		
15	テストの解答と解説		
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b> 使用テキスト 系統看護学講座 基礎3 生物学 参考文献 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野生理学</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> 試験80点＋平常点20点、60点以上合格</p>	

授業概要			
科目名 英語	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 理学療法で用いる基本的な医学英語の習得</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 解剖学での専門用語 位置、方向、骨、筋、リハビリテーションで用いる略語を中心に学ぶ。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 理学療法で用いる骨、筋などの専門用語を英語で記載できる。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション 日本の医療制度		
2	医療用語の法則 1		
3	解剖学用語、面、位置、方向		
4	解剖学用語、系統、領域		
5	解剖学用語、骨の結合様式、運動		
6	身体の部位名		
7	骨格と関節 上肢		
8	骨格と関節 下肢		
9	筋収縮		
10	筋系 体幹		
11	筋系 上肢		
12	筋系 下肢		
13	略語		
14	総復習		
15	振り返り		
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b> 講義配布資料</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> 試験 80点，平常点 20点（出席 5点，授業態度 5点，課題 5点，小テスト 5点） 計 100点 60点以上合格</p>	

授業概要			
科目名 指導技術論・接遇法	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 8	時間数 15	学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
<b>【授業の目的・ねらい】</b> これからの医療・介護施設に求められるのは、すべての専門スタッフによる利用者様（患者様）の立場に立った接遇である。医療現場で働く者として利用者様（患者様）やご家族に満足を与え、自分も楽しんで仕事ができるよう接遇マナーの基本を学ぶ。			
<b>【授業全体の内容の概要】</b> <b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	なぜビジネスマナーが必要か ホスピタリティとは 1分間スピーチ		
2	コミュニケーションの原則 ビジネスマナーの5原則-挨拶・表情		
3	真の接遇を目指す 立ち居振る舞い 身だしなみ		
4	仕事に対する意識 身だしなみ・言葉遣い（心配りを示す）		
5	言葉遣い（敬語）		
6	言葉遣い・電話対応		
7	電話対応・来客対応・傾聴		
8	傾聴トレーニング・就業中のマナー・総復習		
<b>【使用テキスト・参考文献】</b> 医療に従事する人のための患者接遇マナー 基本テキスト		<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 期末試験 60点以上合格。	

授業概要			
科目名 保健体育	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 1年・前期・後期	必修・選択 必修
<b>【授業の目的・ねらい】</b> 各種ボールゲームを通して各種運動の特性に応じた技能を高め、関心を持たせ運動の楽しさや喜びを体得させる			
<b>【授業全体の内容の概要】</b> 各種目ごとの技術に関する方法論やルールを解説しながら習得させる			
<b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 練習やゲームにより互いに協力する態度、健康や安全に留意する能力を身に付けさせる			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション（種目内容・評価方法など） 種目：バレーボール パス練習		
2	種目：バレーボール ルール・審判法の説明 スパイク・サーブ練習		
3	種目：バレーボール 実技試験の説明・練習・試験（直上パス）		
4	種目：バレーボール 6人制ゲーム		
5	種目：フットサル 対面パス・三角パス・トラップ・ドリブル練習		
6	種目：フットサル ルール・審判法の説明 5人制ゲーム		
7	種目：フットサル 実技試験の説明・練習・試験（リフティング）		
8	種目：フットサル 5人制ゲーム		
9	種目：バスケットボール パス・ドリブル・シュート練習 2対1・2対2・3対3		
10	種目：バスケットボール ルール・審判法の説明 5人制ゲーム		
11	種目：バスケットボール 実技試験の説明・練習・試験（フリーシュート・30秒間シュート）		
12	種目：バスケットボール 5人制ゲーム		
13	種目：ボウリング 2ゲームの合計得点で競う		
14	種目：卓球およびバドミントン	サーブ・スマッシュ・ラリー練習	
15	種目：卓球およびバドミントン	シングル・ダブルスの簡易ゲーム	
【使用テキスト・参考文献】 なし		【単位認定の方法及び基準】 実技試験 60点、平常点 40点（出席、授業態度） 計 100点 60点以上合格	



授業概要			
科目名 総合学習論	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 30	時間数 60	学年・時期 1年・前期・後期	必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 専門科目を学習していく上で必要な読解力，表現力，基礎知識を養う．グループワークを通して、レジュメ・レポート作成，発表に取り組み、解剖学・生理学・運動学の基礎を習得し関連づけを行う．</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 基礎科目の理解と専門科目への備えとして，文章読解力・分析力・作成力・伝達力の向上をはかり，基礎科目の再確認をする．</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 理学療法の礎となる、基礎科目（解剖学・生理学・運動学）の学びを深める．</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション		
2	学力テスト		
3	グループワーク 解剖学①		
4	グループワーク 生理学①		
5	グループワーク 運動学①		
6	グループワーク 解剖学②		
7	グループワーク 生理学②		
8	グループワーク 運動学②		
9	グループワーク 解剖学③		
10	グループワーク 生理学③		
11	グループワーク 運動学③		
12	グループワーク 解剖学④		
13	グループワーク 生理学④		
14	グループワーク 運動学④		
15	まとめ・総復習		
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b> PT・OT基礎から学ぶ解剖学ノート PT・OT基礎から学ぶ生理学ノート PT・OT基礎から学ぶ運動学ノート カラーで学べる病理学</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> 試験 80点，平常点 20点（授業態度 10点，課題 10点） 計 100点 60点以上合格</p>	

授業概要			
科目名 解剖学 I	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 医学の基礎と根幹をなす人体の構造について、理解を深める。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 基本的な人体構造を理解し、神経系、脈管系、感覚器系、内臓系などの基礎知識を系統的に習得する。講義は器官系ごとに行うが、他の器官系との相互関係・作用について、また疾患や治療など臨床的側面について、常に意識し個々の知識を幅広く絡めて理解すること。この科目は、総論である人体のあらましをはじめ、神経系、脈管系を中心に講義を行う</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 胞、組織、器官さらに各器官系の相互的構造・作用（人体のあらまし）について理解できる。神経系（中枢神経、末梢神経）脈管系（心臓、全身の動脈、静脈）について説明できる。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	人体のあらまし		
2	中枢神経系①		
3	中枢神経系②		
4	中枢神経系③		
5	中枢神経系④		
6	中枢神経系⑤		
7	末梢神経①		
8	末梢神経②		
9	末梢神経③		
10	末梢神経④		
11	循環器系①		
12	循環器系②		
13	循環器系③		
14	循環器系④		
15	循環器系⑤		
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b> 「コメディカルのための臨床解剖学サブノート」、エッセンシャル解剖学テキスト&amp;アトラス「機能解剖で斬る神経系疾患」 ネル臨床解剖学：</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> 筆記試験. 60点以上合格とする。小テスト、レポート課題、受講態度を加味する場合がある。</p>	

授業概要			
科目名 解剖学Ⅰ（骨格・関節靭帯）	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 理学療法士として欠かせない骨格・関節靭帯の解剖を中心に、人体構造の把握とその機能について学習することを目的とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 医療従事者として欠かすことのできない解剖学（骨格・関節靭帯）について、人体構造の把握や位置関係、機能を理解し学習する。また、講義に小テストを取り入れていく。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 骨・関節靭帯では、人体構造を3次的に理解し、部位の名称を正確に学習する。 また、人体における内部構造の指標となる体表部位を理解し説明できる。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	解剖学総論		
2	骨格系総論		
3	脊柱①		
4	脊柱②		
5	上肢①		
6	上肢②		
7	上肢③		
8	骨盤		
9	下肢①		
10	下肢②		
11	下肢③		
12	頭蓋		
13	関節構造と機能		
14	関節と靭帯		
15	解説・まとめ		
[使用テキスト・参考文献] Essential 解剖学テキスト&アトラス コメディカル のための臨床解剖学サブノート		[単位認定の方法及び基準] 試験 80点, 平常点 20点 (出席 5点, 授業態度 5点, 小 テスト 10点) 計 100点 60点以上合格	

授業概要			
科目名 解剖学Ⅱ	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 医学の基礎と根幹をなす人体の構造について、理解を深める。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 基本的な人体構造を理解し、神経系、脈管系、感覚器系、内臓系などの基礎知識を系統的に習得する。講義は器官系ごとに行うが、他の器官系との相互関係・作用について、また疾患や治癒など臨床的側面について、常に意識し個々の知識を幅広く絡めて理解すること。この科目は、感覚器系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系など内臓系を中心に講義を行う。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 感覚器系（体性感覚・特殊感覚）、消化器系（消化管系、肝臓、胆嚢、膵臓）、呼吸器系（上気道・下気道、肺）、泌尿器系（腎臓、尿路）、生殖器（男性、女性生殖器）について説明できる。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	泌尿器①		
2	生殖器①		
3	生殖器②		
4	生殖器③		
5	呼吸器①		
6	呼吸器②		
7	呼吸器③		
8	消化器①		
9	消化器②		
10	消化器③		
11	消化器④		
12	感覚器①		
13	感覚器②		
14	感覚器③		
15	感覚器④		
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b> 「コメディカルのための臨床解剖学サブノート」、エッセンシャル解剖学テキスト&amp;アトラス」南江堂、「機能解剖で斬る神経系疾患」木元省美堂</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> 筆記試験. 60点以上合格とする。小テスト、レポート課題、受講態度を加味する場合がある。</p>	

授業概要			
科目名 解剖学Ⅱ（筋系・神経系）	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数	時間数	学年・時期	必修・選択
15	30	1年・後期	必修 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 理学療法士として欠かせない筋・神経系の解剖を中心に、人体構造の把握とその機能について学習することを目的とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 筋学・神経学の総論を講義した後、それぞれの筋・神経の位置関係、機能を理解し、学習する。また、講義に小テストを取り入れていく。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 筋学では、体幹・上肢・下肢の必要筋群を理解し、その位置関係・作用等が説明できることを目標とする。また、神経学では、中枢神経・末梢神経の解剖学的役割を理解する。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	筋系 総論		
2	体幹筋群について①		
3	体幹筋群について②		
4	上肢筋群について① 肩関節周囲筋		
5	上肢筋群について② 上腕部周囲筋		
6	上肢筋群について③ 前腕部周囲筋		
7	上肢筋群について④ 手部周囲筋		
8	下肢筋群について① 股関節周囲筋		
9	下肢筋群について② 大腿部周囲筋		
10	下肢筋群について③ 下腿周囲筋		
11	下肢筋群について④ 足部周囲筋		
12	神経系 総論		
13	中枢神経について		
14	末梢神経について		
15	まとめ 総復習		
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b> 「コメディカルのための臨床解剖学サブノート」、エッセンシャル解剖学テキスト&amp;アトラス」南江堂、「機能解剖で斬る神経系疾患」株式会社メディカルプレス、骨格筋の形と触察法 第2版 大峰閣</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> 試験 80点、平常点20点（出席5点、授業態度5点、小テスト10点） 計100点 60点以上合格</p>	

授業概要			
科目名 解剖学実習	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 23	時間数 45	学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
<b>【授業の目的・ねらい】</b>			
1 年前期で学習した解剖学を三次元的に理解することが目的である。また、グループワークを行うことにより、局所的な解剖学の理解を深めていく。			
<b>【授業全体の内容の概要】</b>			
各骨、関節を様々な角度から観察しスケッチ行う。また局所解剖のグループワークを行うことにより、解剖見学実習の事前学習に繋げていく。			
<b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b>			
骨格筋・関節の名称や位置関係を理解し、それらを三次元的にイメージできることを目標とする。			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション		
2	骨スケッチ 椎骨①		
3	骨スケッチ 椎骨②		
4	骨スケッチ 仙骨		
5	骨スケッチ 肩甲骨		
6	骨スケッチ 鎖骨・肋骨		
7	骨スケッチ 胸骨		
8	骨スケッチ 上肢①		
9	骨スケッチ 上肢②		
10	骨スケッチ 寛骨		
11	骨スケッチ 下肢①		
12	骨スケッチ 下肢②		
13	骨スケッチ 頭蓋骨		
14	局所解剖学 グループワーク（肩関節）		
15	局所解剖学 グループワーク（肘関節）		
16	局所解剖学 グループワーク（股関節）		
17	局所解剖学 グループワーク（膝関節）		
18	局所解剖学 グループワーク（足部）		
19	局所解剖学 グループワーク（腰部・体幹）		
20	局所解剖学 グループワーク（臓器）		
21	総復習		
22	総復習		
23	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] 日本人体学（上）		[単位認定の方法及び基準] 出席 50 点，授業態度 10 点，課題 20 点，小テスト 20 点 計 100 点 60 点以上合格	

授業概要			
科目名 機能解剖学 I	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 23	時間数 45	学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 理学療法士に必要な触察について学習する.</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 筋肉・骨・神経・血管について、実習する.</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 理学療法士において必要な触察技術を身につけることができる.</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション		
2	肩甲骨		
3	僧帽筋		
4	肩甲挙筋 小菱形筋 大菱形筋 広背筋		
5	頭板状筋 頸板状筋		
6	腸肋筋 最長筋 腰方形筋 頭半棘筋		
7	胸鎖乳突筋 前斜角筋 中斜角筋 前鋸筋		
8	大胸筋 小胸筋		
9	腹直筋 外腹斜筋 内腹斜筋		
10	中間復習		
11	中間復習		
12	三角筋		
13	棘上筋 棘下筋 小円筋		
14	大円筋 肩甲下筋		
15	上腕二頭筋 烏口腕筋		
16	上腕筋		
17	上腕三頭筋		
18	円回内筋		
19	橈側手根屈筋長掌筋 尺側手根屈筋		
20	浅指屈筋 深指屈筋 長母指屈筋 方形回内筋		
21	総復習		
22	総復習		
23	まとめ		
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b> 骨格筋の形と触察法 第2版 大峰閣 水着など触察できる服装を用意すること バスタオル・ウエットティッシュも各自用意すること</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> 実技試験 40点, 小テスト 40点, 口頭試問 20点 60点以上合格</p>	

授業概要			
科目名 機能解剖学Ⅱ	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 23	時間数 45	学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
<b>【授業の目的・ねらい】</b> 理学療法士に必要な触察について学習する。			
<b>【授業全体の内容の概要】</b> 筋肉・骨・神経・血管について、実習する。			
<b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 理学療法士において必要な触察技術を身につけることができる。			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	腕橈骨筋		
2	長橈側手根伸筋 短橈側手根伸筋		
3	肘筋 尺側手根伸筋小指伸筋 総指伸筋		
4	回外筋 長母指外転筋 短母指伸筋 長母指伸筋 示指伸筋		
5	腸骨筋 大腰筋		
6	寛骨①		
7	大殿筋		
8	中殿筋（後部）小殿筋		
9	梨状筋 内閉鎖筋 上双子筋 下双子筋 大腿方形筋 外閉鎖筋		
10	大腿筋膜張筋 中殿筋（前部）		
11	縫工筋		
12	大腿四頭筋		
13	大腿二頭筋		
14	半腱様筋 半膜様筋		
15	薄筋 長内転筋 大内転筋		
16	前脛骨筋 長趾伸筋 第三腓骨筋 長母趾伸筋		
17	長腓骨筋 短腓骨筋		
18	腓腹筋		
19	ヒラメ筋		
20	長趾屈筋 長母趾屈筋 後脛骨筋		
21	総復習		
22	総復習		
23	まとめ		
<b>【使用テキスト・参考文献】</b> 骨格筋の形と触察法 水着など触察できる服装を用意すること バスタオル・ウエットティッシュも各自用意すること		<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 実技試験 40点, 小テスト 40点, 口頭試問 20点 , 60点 以上合格	



授業概要			
科目名 生理学 I	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 1年 前期	必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>            器官の機能低下や亢進は正常な行動を不可能とし、生活に著しい支障をきたす。機械的、機能的異常から速やかに回復し正常な生活を営むためにリハビリテーション医療の重要性がある。生理学の講義はリハビリテーション医療のための基礎となるものである。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>            人体はいろいろな器官が集まって、身体を形づくり、一団体として機能している。生理学 I では神経系と骨格筋及び感覚系が如何に生体内で機能しているかを理解することを重点に講義する。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b>            神経系と骨格筋及び感覚系が如何に生体内で機能しているかを理解する</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	細胞と内部環境		
2	静止・活動電位, 細胞内小器官		
3	細胞内小器官, 神経の情報伝達		
4	シナプス伝達, 神経の変性と再生		
5	筋の収縮		
6	筋の興奮ー収縮連関		
7	筋の分類と収縮エネルギー, 活動張力		
8	生体内での筋収縮パターン, 筋紡錘, 腱器官		
9	筋疲労, 骨格筋疾患		
10	骨格筋疾患, 末梢神経系		
11	末梢神経系, 中枢神経系 (脳の構造大脳皮質)		
12	大脳皮質の機能局在		
13	感覚系		
14	感覚系		
15	試験解説		
[使用テキスト・参考文献] 標準理学療法・作業療法 生理学		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 60 点以上合格.	

授業概要			
科目名 生理学Ⅱ	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 1年 後期	必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>            人体の機能は生理学Ⅰで学んだ神経系の活動と骨格筋の収縮・弛緩，感覚系の働きに加え，循環系，呼吸系，腎機能，内分泌系，消化器系などの協同により維持されている。これらの諸器官がいかんして生体内で機能しているのかを理解し，生体のホメオスタシスを学ぶことにある。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>            循環系，呼吸系，腎機能，内分泌系，消化器系などの正常な機能を理解することにより，器官の機能低下や亢進時にみられる支障を理解し，リハビリテーション医療のための基礎を構築する。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b>            循環系，呼吸系，腎機能，内分泌系，消化器系などの生体内で機能しているのかを理解する</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	血液・体液		
2	血液		
3	生体防御系		
4	自己免疫疾患		
5	心筋		
6	循環，内分泌		
7	内分泌		
8	呼吸		
9	呼吸，腎機能		
10	腎機能		
11	腎機能，酸一塩基平衡		
12	酸一塩基平衡，消化		
13	消化—吸収		
14	まとめ		
15	試験解説		
[使用テキスト・参考文献] 標準理学療法・作業療法 生理学		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 60 点以上合格。	

授業概要			
科目名 生理学実習	授業の種類	授業担当者	
	実習		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
<b>【授業の目的・ねらい】</b> 神経と骨格筋の各々の働きを、実際に自分の目で観察することにより、その性質を理解すること			
<b>【授業全体の内容の概要】</b> 各実習項目を行う前にその目的と基礎知識を得るための講義を行う			
<b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 神経と骨格筋の各々の働きを実際に自分の目で観察する事により理解する。			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	実習準備（機械の取り扱い、リンゲル液作成、コンピュータ操作）		
2	実習準備（機械の取り扱い、リンゲル液作成、コンピュータ操作）		
3	活動電位の記録と不応期の測定		
4	活動電位の記録と不応期の測定		
5	活動電位の峰分かれと伝導速度		
6	活動電位の峰分かれと伝導速度		
7	活動電位と外液 Na <sup>+</sup> 、K <sup>+</sup> イオンの役割		
8	活動電位と外液 Na <sup>+</sup> 、K <sup>+</sup> イオンの役割		
9	筋の単収縮、強縮		
10	筋の単収縮、強縮		
11	筋の長さ－張力曲線		
12	筋の長さ－張力曲線		
13	筋疲労		
14	筋疲労		
15	まとめ		
<b>【使用テキスト・参考文献】</b> 資料配布		<b>【単位認定の方法及び基準】</b> レポート課題 60 点以上合格。	

授業概要			
科目名 運動学 I	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>            生体の平衡状態維持する器官系のうち骨格系，筋系および神経系を理解する。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>            運動学の諸原理は，解剖学，生理学および物理学から得られているとされる。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b>            生体の平衡状態維持する器官系のうち骨格系，筋系および神経系を理解し説明ができることを目標とする</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	記憶とは		
2	細胞と組織		
3	骨の機能と構造		
4	関節の機能と構造		
5	骨格筋の構造，筋線維の収縮機序		
6	筋線維の種類，筋収縮の様相		
7	体性神経，自律神経		
8	シナプス伝達，神経伝導		
9	脊髄		
10	脳幹，小脳		
11	間脳		
12	大脳		
13	運動の中枢機構（反射）		
14	総復習		
15	解説・まとめ		
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>            基礎運動学            参考文            標準理学療法学・作業療法学基礎分野 生理学</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>            授業態度 5% 出席状況 5% 期末試験 90%            60%以上合格</p>	

授業概要			
科目名 運動学Ⅱ	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 人間が当たり前に行っている、歩く・立ち上げるなどの動作を、骨格筋や関節などの解剖的構造から、運動力学・神経系システムの運動制御・骨格のメカニズム等を学習することを目的とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 姿勢・歩行を中心に、関節の動きや機能を運動学的観点から学習する。講義は教科書や配布資料、また必要に応じてPowerPointを利用しながら進めていく。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 前期で学習した解剖・生理・運動学を基に、ヒトの動きを運動学的観点から考察できることを目標とする。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	上肢帯と上肢の運動について①		
2	上肢帯と上肢の運動について②		
3	下肢帯と下肢の運動①		
4	下肢帯と下肢の運動②		
5	体幹の運動①		
6	体幹の運動②		
7	姿勢について		
8	重心について		
9	歩行周期について		
10	運動と動作の分析①		
11	運動と動作の分析②		
12	エネルギー代謝について		
13	歩行と走行について		
14	運動発達について		
15	まとめ 総復習		
[使用テキスト・参考文献] 基礎運動学		[単位認定の方法及び基準] 試験 80点, 平常点 20点 (出席 5点, 授業態度 5点, 課題 5点, 小テスト 5点) 計 100点 60点以上合格	

授業概要			
科目名 運動学実習	授業の種類	授業担当者	
	実習		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 教科書で学んだ人体の構造と機能を基に、実習をすることで評価の体験、実験データの解析および統合と解釈の流れを学ぶ</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> グループで実験を行い、実験データから必要な情報を導き出し、各々の解釈をまとめ発表する</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 実験データから必要な情報を導き出し、各々の解釈をまとめ発表することができる</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	実習前講義 姿勢と運動1		
2	実習前講義 姿勢と運動2		
3	実習前講義 感覚1		
4	実習前講義 感覚2		
5	実習前講義 歩行1		
6	実習前講義 歩行2		
7	実習1		
8	実習1		
9	実習2		
10	実習2		
11	実習3		
12	実習3		
13	実習4		
14	実習4		
15	発表・まとめ		
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b> 基礎運動学 実習が行いえる服装（短パン、Tシャツなど）を準備すること。（準備ができていない者は受講できない）</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> 授業態度 20% 出席状況 20% 発表 60% 60%以上合格</p>	

授業概要			
科目名 人間発達学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 人間発達の心理的な部分を中心に、胎生期から老人期に至るまでの生涯にわたっての発達段階ごとの特徴・課題を中心に、人間理解のための一助とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 人間を時系列で見たとき、その時期特有の問題点に焦点をあて、できるだけわかりやすい事例を用いながら理解を深める</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 臨床で出会う対象者を発達段階をふまえて理解できるようにする。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	発達とは。発達理論		
2	発達の見方と発達検査		
3	胎児期・新生児期の発達		
4	乳児期の発達①		
5	乳児期の発達②		
6	幼児期の発達		
7	学童期の発達		
8	児童期の発達		
9	青年期の発達		
10	成人期の発達		
11	老年期の発達		
12	身体の運動機能と構造・知覚・認知機能の発達と障害		
13	情緒・社会性・言語機能の発達と障害		
14	脳・神経系・内部機能の発達と障害		
15	試験の振り返り		
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b> 「リハビリテーションのための人間発達」</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> 定期試験 60 点以上、レポート提出</p>	

授業概要			
科目名 臨床心理学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 医療従事者として、現場で必要とされる臨床心理学の基礎的な知識を身につけるとともに、対人援助職として対象者を理解するために、いかに関わればいいのかを考える機会とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 対人援助においては、対象者となる人間の理解が必要である。臨床心理学では、特に心理面での人間理解の方法としての人格理論・心理アセスメントについて学ぶ。また、心の問題を解決する方法としての心理療法の様々な技法についても理解を深める。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 人格理論、心理アセスメント、心理療法の用語が具体的に理解できている。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	臨床心理学とは何か		
2	人格理論① フロイトの精神分析理論 自我防衛機制		
3	人格理論② ユングの分析心理学		
4	臨床心理学的援助の実際		
5	発達理論・発達障害の理解		
6	心理アセスメント①発達検査・知能検査		
7	心理アセスメント②知能検査の実際		
8	心理アセスメント③人格検査（質問紙法）		
9	心理アセスメント④人格検査（投影法）		
10	心理アセスメント⑤作業検査等、心理アセスメントの実際		
11	心理療法①心理療法の基本的態度、心理療法の技法		
12	心理療法②言語的接近法		
13	心理療法③非言語的接近法		
14	心理療法④行動療法等		
15	試験の振り返り		
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b> 川瀬正裕・松本真理子・松本英夫著「心とかかわる臨床心理」 「心とかかわる臨床心理 基礎・実際・方法」 ナカニシヤ出版</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> 定期試験 60 点以上合格</p>	



授業概要			
科目名 内科学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 8	時間数 16	学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b></p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b></p> <p>内科学系を学ぶにあたって大切なことは「概念」を理解することです。概念を理解するためにはその元となる基本的な知識（解剖学などの基礎医学的知識）が必要となります。1年生の段階では内科学と並行して基礎医学的な知識を習得するように心がけてください。本講義では内科学の知識習得を目的として、指定テキストに沿って講義を進めます。また療法士としての着眼点を「理学作業療法との関連事項」などを中心に学びます。さらに近年の国家試験の出題傾向についても随時補足していきます。質問等は講義中または講義終了後に随時発言してください。</p> <p>また折に触れて、皆さんが成長するための「社会人としての心構え」を助言していきます。本講義を通じて共に学び成長していきましょう。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b></p> <p>その他</p> <p>①在学中に「一次救命講習（CPRとAED）」の受講を推奨します。</p> <p>②読書の励行，図書館（校内・他大学・公共）の利用を推奨します。</p> <p>③医療従事者として（喫煙者は）「禁煙」を推奨します。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	第4章（循環器疾患・総論）		
2	第4章（循環器疾患・各論）		
3	第5章（呼吸器疾患・総論）		
4	第5章（呼吸器疾患・各論）		
5	第9章（代謝性疾患）		
6	第10章（内分泌疾患）		
7	第11章（腎泌尿器疾患）		
8	試験解説および総括		
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b></p> <p>大成浄志「標準理学療法学・作業療法学 内科学 第3版」</p> <p>必要時に資料配布や文献紹介を加えます</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b></p> <p>期末科目試験をもとに総合的に評価します。60点以上合格 ※事前の予習状況や講義中の積極性を総合評価に加味します。</p>	

授業概要			
科目名 内科学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 5	時間数 10	学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] [授業全体の内容の概要] [授業終了時の達成課題（到達目標）]			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	内科学総論		
2	症候学		
3	消化器総論, 上部消化管		
4	下部消化管, 胆, 膵		
5	肝, 胃ろう		
[使用テキスト・参考文献] 標準理学療法学・作業療法学 内科学		[単位認定の方法及び基準] 定期試験 60 点以上合格	

授業概要			
科目名 内科学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 5	時間数 10	学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>            造血組織，造血機構，造血幹細胞について理解する。            白血病，リンパ腫，骨髄腫といった造血器腫瘍の診断，治療を理解する。            血友病，血小板減少症といった出血性疾患及び血栓性疾患を理解する。            鉄欠乏性貧血をはじめ，代表的な貧血性疾患を理解する。            造血幹細胞移植を含め，最新の血液学の診断，治療の進歩を理解する。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>            造血機構及び造血器疾患，出血性疾患，血栓性疾患，貧血性疾患の診断，治療の解説</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b>            造血機構及び造血器疾患，出血性疾患，血栓性疾患，貧血性疾患の診断，治療についての理解を深められる。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	造血機構，造血幹細胞の分化，機能		
2	白血病，リンパ腫，骨髄腫		
3	出血性疾患と血栓性疾患		
4	貧血		
5	造血幹細胞移植と最新の血液学の進歩		
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>            使用テキスト：標準理学療法学・作業療法学 内科学            参考文献：1. わかりやすい内科学 2. 老年医学テキスト</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>            定期試験 60 点以上合格</p>	

授業概要			
科目名 整形外科学 I	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 整形外科は運動器の疾患をあつかう科であり、脊椎、脊髄、体幹、上肢、下肢にわたり、あつかう組織は骨、筋腱、靭帯、関節、神経におよぶ。それぞれの部位ごとに機能解剖および先天疾患、変性疾患、外傷、炎症、腫瘍等の病的理解、治療法につき講義を行う。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 整形外科基礎、画像診断、関節リウマチ、上下肢の関節疾患、腫瘍、感染症などについて講義を行う。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 整形外科基礎および各疾患の病態、治療法について理解する。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	整形外科基礎（骨・関節・筋・神経系の基本構造・病態生理）		
2	痛みの生理，各種画像法（MR I まで）		
3	画像診断法（一般）		
4	骨・関節感染症		
5	関節リウマチ他		
6	骨・関節の感染症，慢性関節疾患		
7	骨壊死，先天性骨系統疾患		
8	骨粗鬆症など，骨腫瘍		
9	骨・軟部疾患		
10	脳・神経疾患		
11	肩関節疾患，肘関節疾患		
12	肘関節疾患，股関節疾患		
13	股関節疾患，膝関節疾患（1部）		
14	膝関節疾患		
15	整形外科一般（まとめ）		
[使用テキスト・参考文献] 標準整形外科学		[単位認定の方法及び基準] 定期試験 60 点以上合格	

授業概要			
科目名 整形外科学Ⅱ	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 整形外科は運動器の疾患をあつかう科であり，脊椎，脊髄，体幹，上肢，下肢にわたり，あつかう組織は骨，筋腱，靭帯，関節，神経におよぶ．それぞれの部位ごとに機能解剖および先天疾患，変性疾患，外傷，炎症，腫瘍等の病態理解，治療法について学ぶ．</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 整形外科の基礎知識と関連事項</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 上記目的・ねらいの達成</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	スポーツ外傷①		
2	スポーツ外傷②		
3	スポーツ外傷③		
4	スポーツ外傷④		
5	スポーツ外傷⑤		
6	外傷各論①		
7	外傷各論②		
8	スポーツ障害		
9	脊椎・脊髄損傷		
10	脊椎・脊髄の解剖，診察，疾患総論		
11	頸椎・胸椎疾患，RA，側彎症		
12	脊椎感染症，腰椎疾患，脊椎・脊髄腫瘍		
13	脊椎・脊髄損傷，まとめ		
14	手の外科①		
15	手の外科②		
[使用テキスト・参考文献] 標準整形外科学		[単位認定の方法及び基準] 定期試験 60 点以上合格	

授業概要			
科目名 神経内科学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年 前期	必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 本講義では神経内科学の知識習得を目的として、指定テキストに沿って講義を進めます。また療法士としての着眼点を「理学作業療法との関連事項」を中心に学びます。さらに近年の国家試験の出題傾向についても随時補足していきます。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 指定のテキストに沿って講義を進める。また、近年の国家試験の出題傾向についても随時補足していく</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b></p> <p>①在学中に「一次救命講習（CPRとAED）」の受講を推奨します。 ②読書の励行，図書館（校内・他大学・公共）の利用を推奨します。 ③医療従事者として（喫煙者は）「禁煙」を推奨します。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	第1・2章		
2	第3・4章		
3	第5・6章		
4	第7・8・9章		
5	第10・24章		
6	第11～16章		
7	第17～19章		
8	第20・23章		
9	第21章		
10	第25・26章		
11	第27～29章		
12	第30～32章		
13	第33～35章		
14	補足事項・総まとめ		
15	科目試験解説および総括		
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b> 川平知美（編）『標準理学療法学・作業療法学 神経内科学』  資料配布や文献紹介を随時加えます。</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> 平常点および期末科目試験を総合的に評価し、必要時に再試験，課題等。  総評60点以上を合格とする。※「平常点」は予習状況や講義中の積極性を評価対象とします。</p>	

授業概要			
科目名 脳外科学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>            脳は人格を形成する重要な組織である。加えて注意すべきことは脳神経細胞が一度細胞死をきたすと二度と再生、増殖しないことと中枢神経には機能局在があるということである。従って、脳神経の疾患は損傷を受けた部位と損症の程度により機能低下（損傷）の種類と症状の度合いが異なる。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>            脳神経外科疾患の概要を把握し、病態、診断、治療法についての理解（どの中枢部位の損傷がどのような機能異常を起こすか）を深め、長期間のリハビリを必要とする脳機能回復のための理学療法の必要性について学ぶ。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b>            脳神経外科疾患の概要を把握し、病態、診断、治療法について理解する。長期間のリハビリを必要とする脳機能回復のための理学療法の必要性を理解する。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	緒論		
2	主要症候一頭痛、けいれん		
3	主要症候一意識障害		
4	主要症候一頭蓋内圧亢進、脳ヘルニア		
5	主要症候一脳浮腫、脳循環代謝異常		
6	画像診断法		
7	神経所見		
8	脳腫瘍		
9	下垂体腺腫		
10	脳内血腫、一過性脳虚血		
11	くも膜下出血、脳内出血		
12	脳内出血、脳梗塞		
13	脳梗塞の治療		
14	まとめ		
15	解説・まとめ		
[使用テキスト・参考文献] 標準脳神経外科学		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 60点以上合格	

授業概要			
科目名 精神医学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
<b>【授業の目的・ねらい】</b> 精神障害の分類や症状，診断・評価など精神医学の基礎知識の習得を目的とする			
<b>【授業全体の内容の概要】</b> 精神医学総論・各論の全般的な講義を行う			
<b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 精神障害を有する患者の理解に必要な基本的事項を習得する			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	イントロダクション		
2	神経心理的症状（意識・記憶・失語など）		
3	認知症（Alzheimer 病）		
4	認知症（Lewy 小体病など）		
5	症状性精神障害・てんかん		
6	薬物依存・アルコール関係		
7	統合失調症		
8	気分障害		
9	不安性障害・ストレス関連障害		
10	解離性障害・パーソナリティ障害・心身症		
11	摂食障害・睡眠障害		
12	発達障害		
13	精神療法		
14	精神保健福祉法		
15	試験解説		
<b>【使用テキスト・参考文献】</b> 標準理学療法学・作業療法学 精神医学		<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 定期試験，60 点以上合格。	



授業概要			
科目名 小児科学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
<b>[授業の目的・ねらい]</b> 理学・作業療法を行う上で、必要な小児科学の知識を学び、現場での総合的な判断力を養う。			
<b>[授業全体の内容の概要]</b> 小児科の基礎知識と関連事項			
<b>[授業終了時の達成課題（到達目標）]</b> 上記、目的・ねらいの達成			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	小児科学総論①		
2	小児科学総論②		
3	小児科学総論③＋診断と治療		
4	新生児・未熟児総論		
5	先天異常と遺伝病①		
6	先天異常と遺伝病②		
7	神経・筋・骨系疾患①		
8	神経・筋・骨系疾患②		
9	循環器疾患		
10	呼吸気疾患		
11	感染症・消化器疾患①		
12	感染症・消化器疾患②内分泌・代謝疾患		
13	血液疾患，免疫・アレルギー疾患他		
14	腎，腫瘍性疾患他（テスト範囲の説明）		
15	試験解説，講義の総括・補足		
<b>[使用テキスト・参考文献]</b> 標準理学療法学・作業療法学 小児科学		<b>[単位認定の方法及び基準]</b> 定期試験 60 点以上合格。	

授業概要			
科目名 老年学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
<b>【授業の目的・ねらい】</b> 老年学の概念を学ぶ			
<b>【授業全体の内容の概要】</b> 老年学の概念，基礎知識を学び，高齢者医療におけるリハビリテーションの役割			
<b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 老年学の概念，基礎知識を習得し，高齢者医療におけるリハビリテーションの役割を理解する。			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	序説～老化，加齢変化①生理機能		
2	加齢変化②運動機能，精神心理面 高齢者へのアプローチ／人口動態		
3	高齢者の機能評価①		
4	高齢者の機能評価②		
5	退院支援，老年症候群各論①		
6	老年症候群②		
7	循環器疾患		
8	呼吸器疾患		
9	消化器疾患		
10	骨・運動器疾患		
11	神経疾患，精神疾患		
12	神経疾患，精神疾患，内分泌代謝疾患		
13	血液・免疫疾患，腎・泌尿器疾患		
14	皮膚・口腔疾患，感染症 試験について		
15	試験解説 耳鼻咽喉疾患，眼疾患，ほか補足		
【使用テキスト・参考文献】 標準理学療法・作業療法 老年学／医学書院		【単位認定の方法及び基準】 定期試験 60 点以上合格。	

授業概要			
科目名 地域医療学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 8	時間数 15	学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 地域医療の実際を紹介し，地域リハビリテーション，災害地の医療，老年医療のあり方等を学習する。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 地域医療を実践しているプライマリケア医を紹介するとともに，その医療に必要な家庭医療医学，老年医療学，リハビリテーション医学などを講義する。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 地域医療の方法や概念を学習し，その実際を理解する。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	地域医療学 総論 （自己紹介・医療崩壊）		
2	地域医療学 総論 （地域医療の実際の紹介①）		
3	地域医療学 総論 （地域医療の実際の紹介②）		
4	地域医療学 総論 （地域リハビリテーション）		
5	地域医療学 （地域リハビリ，訪問リハビリの実際）		
6	地域医療学 （災害地の医療・訪問診療の実際/肺炎について）		
7	地域医療学（他職種連携・老年医療のあり方①）		
8	地域医療学（他職種連携・老年医療の在り方②）		
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b> 参考文献 「地域医療テキスト」 「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学」 「標準理学療法学 専門分野 地域理学療法学 」</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> 定期試験 60 点以上合格</p>	

授業概要			
科目名 リハビリテーション医学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 8	時間数 15	学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
<b>【授業の目的・ねらい】</b> リハビリテーション医学の歴史および本質について理解できるようにする。			
<b>【授業全体の内容の概要】</b> リハビリテーション医学の歴史から、各疾患のリハビリテーションの流れを理解する。			
<b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 各疾患におけるリハビリテーション医学の中で、理学療法が果たす役割を理解する。			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	リハビリテーション医学とは リハ医学の歴史		
2	障害分類		
3	リハビリテーションの過程 チーム医療とは		
4	脳血管障害のリハビリテーションの流れ		
5	大腿骨頸部骨折のリハビリテーション		
6	神経疾患のリハビリテーション		
7	小児のリハビリテーションの流れ		
8	リハ医学その他の疾患 試験対策		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] 定期試験 60 点以上合格。 出欠席	

授業概要			
科目名 画像診断学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
<b>【授業の目的・ねらい】</b> 画像の原理や基本的な読み取りを学習し、臨床での活用につなげていく			
<b>【授業全体の内容の概要】</b> 画像を用いて主に整形外科疾患を検討する。			
<b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 画像を用いて、整形外科疾患の症例検討			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	イントロダクション		
2	画像（X線、CT、MRI）の原理		
3	股関節の画像評価 1		
4	股関節の画像評価 2		
5	膝関節の画像評価		
6	脊椎の画像評価		
7	肩関節の画像評価 1		
8	肩関節の画像評価 2		
9	肘関節の画像評価		
10	股関節疾患の症例検討		
11	膝関節疾患の症例検討		
12	脊椎疾患の症例検討		
13	肩関節疾患の症例検討		
14	肘関節疾患の症例検討		
15	講義のまとめ		
<b>【使用テキスト・参考文献】</b> リハビリテーションのための画像の読み方		<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 期末試験 60 点以上合格。	

授業概要			
科目名 リハビリテーション概論	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 8	時間数 15	学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> リハビリテーションとは何かを学び、リハビリテーションという言葉の真の意味を理解し学習する。またリハビリテーションに関わる各専門職を理解し、リハビリテーションにおけるチームアプローチの重要性を学習する。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> リハビリテーションの定義・目的、障害の概念、チームアプローチについて講義する。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> リハビリテーションの概念、障害の概念を理解できる。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	リハビリテーションの定義と目的		
2	病気と障害、障害受容について		
3	リハビリテーションの領域、チームアプローチ		
4	チームアプローチと各種専門職		
5	人間発達とリハビリテーション		
6	障害観と国際障害分類、国際生活機能分類		
7	リハビリテーションと社会生活、社会保障		
8	振り返り・まとめ		
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b> 講義配布資料</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> 試験 90点、平常点10点（出席） 計100点 60点以上合格</p>	

授業概要			
科目名 作業療法学概論	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 8	時間数 15	学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 「作業療法とは何か？」疑問を持ち、チーム医療について考える</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 臨床における作業療法を実例を交えながら紹介し、体験・考察をしていきます。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 自分なりに作業療法のイメージを持ち、且つ、理学療法の役割について考えられる。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	作業と作業療法		
2	作業（活動）分析		
3	脳血管・運動器疾患に対する作業療法		
4	脳血管・運動器疾患に対する作業療法		
5	生活期の作業療法		
6	集団力動		
7	精神障がいとは		
8	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] 配布資料		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 60 点以上合格。	

授業概要			
科目名 言語療法学概論	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 8	時間数 15	学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 言語機能障害や嚥下障害，聴覚等の障害に関する知識，技術の習得</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 近年，脳卒中による言語機能障害や嚥下障害，聴覚等の障害を有する方々に対するリハビリテーションの重要性が増しています。そのような障害について，医療従事者として知っておかなければならない様々な知識や技術をわかりやすく講義します。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 言語機能障害や嚥下障害，聴覚等の障害に関する知識，技術が習得できる。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	言語聴覚障害総論		
2	高次脳機能障害		
3	失語症		
4	構音障害		
5	言語発達障害（脳性麻痺）・吃音		
6	嚥下障害 1		
7	嚥下障害 2		
8	職業”理学療法士”として生きる		
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b> 使用テキスト：A4 ファイルをご用意ください。 参考文献：「言語聴覚療法 臨床マニュアル」</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> 定期試験 60 点以上合格</p>	



授業概要			
科目名 保健医療福祉概論	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 理学療法士として必要な医療制度や社会福祉に関する基礎知識を習得し、チーム医療における役割の理解を目的とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> まずは社会福祉・社会保障・社会保険の違いについてしっかり理解し、わが国における具体的な制度についての理解を深める。また身近な社会資源から世界の社会保障に至るまで実例を示しながら、グループワークも交えて相互理解を図る。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 人々の暮らしの中で、医療・社会福祉がどのような役割があるのかを理解し、歴史・法体系・社会保障制度の重要性を把握する。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション なぜ福祉を学ぶか		
2	社会福祉の歴史①		
3	社会福祉の歴史②		
4	社会保障の概念		
5	社会保障の定義・小テスト		
6	わが国の社会保険制度①		
7	わが国の社会保険制度② 世界の社会保障について（ビデオ学習Ⅰ）		
8	世界の社会保障について（ビデオ学習Ⅱ）		
9	医療保険制度①		
10	医療保険制度②		
11	介護保険について①		
12	介護保険について②		
13	現代社会の様々な問題を読み解く		
14	総復習		
15	まとめ		
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b> 参考文献：新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度 ③ 「社会福祉」</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> 筆記試験 60点以上合格。</p>	

授業概要			
科目名 理学療法概論	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数	時間数	学年・時期	必修・選択
15	30	1年・前期	必修 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>            リハビリテーション医学における理学療法の役割について総合的・体系的に教授する。            理学療法概念・理学療法士の職域と社会的役割・チーム医療における位置づけ・理学療法の特徴について理解を深めていく。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>            理学療法の理念および歴史・倫理、理学療法士の職域と業務管理運営、社会的役割・教育研究および職能団体の意義についても理解を深める。            ディスカッション等の小規模グループワークを行い、援助的構造の集団活動により他者との一体感や親密さを共有する。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b>            医療専門職である理学療法士のイメージを身につけること、今後学習する理学療法各論への知識の統合・統合化への基礎をつくることを目標とする。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	理学療法概論		
2	理学療法と倫理		
3	理学療法の歴史		
4	理学療法士の法律制度		
5	理学療法士としての適性①		
6	理学療法士としての適性②		
7	理学療法士としての適性③		
8	理学療法と心理的対応①		
9	理学療法と心理的対応②		
10	理学療法と心理的対応③		
11	理学療法士の組織と活動		
12	理学療法の職域		
13	理学療法の対象と治療手段		
14	理学療法部門における管理		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] 理学療法概論		[単位認定の方法及び基準] 試験 90点, 平常点 10点 (出席 5点, 授業態度 5点) 計 100点 60点以上合格	

授業概要			
科目名 臨床運動学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 第3者に動作が伝えられるように動作の記述，動作における各部の動きと正常動作のパターンの把握，異常動作の特徴の把握ができる。また異常動作の原因を推察できるようにする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> テキストと参考文献に添って講義・演習をおこなう</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> ①動作の記述が出来る。②動作における各部の動きが言える。③正常動作のパターンが把握できる。④異常動作の特徴を把握できる。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション 序論・バイオメカニクス		
2	基本動作の姿勢制御		
3	寝返り動作1 講義	パターン・各部位・評価	
4	寝返り動作2 演習	分析	
5	起き上がり動作1 講義	パターン・各部位・評価	
6	起き上がり動作2 演習	分析	
7	起立（立ち上がり動作）1 講義	パターン・各部位・評価	
8	起立（立ち上がり動作）2 演習	分析	
9	正常歩行1		
10	正常歩行2		
11	正常歩行3		
12	異常歩行1		
13	異常歩行2		
14	異常歩行3		
15	まとめ		
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b> 教科書 動作分析 臨床活用講座 参考文献 臨床歩行分析ワークブック</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> 試験 80点， 平常点 20点 (出席5点，授業態度5点，課題5点，小テスト5点) 計100点 60点以上合格</p>	

授業概要			
科目名 理学療法研究法	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
<b>【授業の目的・ねらい】</b> 理学療法士における研究法について学習する			
<b>【授業全体の内容の概要】</b> 理学療法における研究の重要性を認識する			
<b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 理学療法士における研究について理解することができる			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	理学療法研究への入り口（なぜ研究するのか？）		
2	研究計画・研究の種類・シングルケースデザイン		
3	文献検索法演習（Ⅰ）情報リテラシー入門と和文献の検索		
4	論文講読演習および発表		
5	臨床研究と生体計測論		
6	基礎医学的研究方法論		
7	社会調査（調査法・質問調査法・尺度の妥当性）		
8	研究と倫理とEBM		
9	文献検索法演習（Ⅱ）国際誌の検索		
10	学会発表と論文作成について		
11	実践統計学		
12	模擬研究演習（Ⅰ）生体計測（データ収集）		
13	模擬研究演習（Ⅱ）データ解析とまとめ		
14	理学療法研究から留学への道		
15	まとめ・総合討論		
<b>【使用テキスト・参考文献】</b> 指定なし 必要に応じてプリントした資料を配布する		<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 出席状況，演習レポートの提出を基本として，試験により 評価する．60点以上合格．	

授業概要			
科目名 理学療法評価学 I	授業の種類	授業担当者	
	講義・実習		
授業の回数	時間数	学年・時期	必修・選択
15	30	1年・後期	必修 必修
<b>[授業の目的・ねらい]</b>			
理学療法の位置づけを理解し、意義・目的を学習し、実際の評価技術を習得する。			
<b>[授業全体の内容の概要]</b>			
理学療法評価の総論と一部各論について講義・実習を行う。			
<b>[授業終了時の達成課題（到達目標）]</b>			
評価とは何かを理解し、情報収集の方法や一部測定を行うことができる。			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	講義：理学療法評価総論		
2	講義：理学療法評価各論：情報収集		
3	実習：理学療法評価各論：形態測定		
4	実習：理学療法評価各論：形態測定		
5	実習：理学療法評価各論：形態測定		
6	実習：理学療法評価各論：関節可動域測定測定（上肢）		
7	実習：理学療法評価各論：関節可動域測定測定（上肢）		
8	実習：理学療法評価各論：関節可動域測定測定（上肢）		
9	実習：理学療法評価各論：関節可動域測定測定（上肢）		
10	実習：理学療法評価各論：関節可動域測定測定（下肢）		
11	実習：理学療法評価各論：関節可動域測定測定（下肢）		
12	実習：理学療法評価各論：関節可動域測定測定（下肢）		
13	実習：理学療法評価各論：関節可動域測定測定（手指）		
14	実習：理学療法評価各論：関節可動域測定測定（体幹）		
15	振り返り・まとめ		
<b>[使用テキスト・参考文献]</b>		<b>[単位認定の方法及び基準]</b>	
理学療法評価学 実習を行える服装で臨むこと。（Tシャツ，ハーフパンツ）		試験 80点，平常点 20点（出席 10点，課題・小テスト 10点）計 100点 60点以上合格	

授業概要			
科目名 理学療法評価学Ⅱ	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 理学療法の効果的な介入を実践するために、理学療法評価を理解し実際の技術を学ぶ</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 評価方法（中枢神経疾患）の意義・目的を理解し実践する。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 各評価方法の意義・目的を理解し実践できる。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	感覚検査		
2	バイタルサイン		
3	腱反射1		
4	腱反射2 皮膚反射		
5	病的反射		
6	筋緊張検査		
7	片麻痺機能検査1		
8	片麻痺機能検査2		
9	脳神経検査		
10	運動失調検査		
11	脳神経支配の筋の検査		
12	高次脳機能検査1		
13	高次脳機能検査2		
14	脳血管疾患の流れ		
15	解説・まとめ		
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b> 理学療法評価学 その他、必要に応じて資料配布</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> 授業態度 5% 出席状況 5% 期末試験 90% 60%以上合格</p>	

授業概要			
科目名 理学療法評価学Ⅲ	授業の種類	授業担当者	
	実習		
授業の回数	時間数	学年・時期	必修・選択
15	30	2年・後期	必修 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 理学療法で取り扱う疾患の中で中枢神経疾患とともに多いのが整形外科疾患である。理学療法で簡単に検査できる方法として、徒手的な検査があり、その代表的なものを説明する。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 各種疾患の検査法、障害および各検査手順を説明する。各検査法が実際にできるよう反復練習する。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 各種疾患の検査法、障害について理解する。各検査手順を理解する。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション、整形外科検査の意義目的について		
2	上肢疾患検査（肩関節①）		
3	上肢疾患検査（肩関節②）		
4	上肢疾患検査（肘関節）		
5	上肢疾患検査（手関節、指関節）		
6	下肢疾患検査（股関節①）		
7	下肢疾患検査（股関節②）		
8	下肢疾患検査（膝関節①）		
9	下肢疾患検査（膝関節②）		
10	下肢疾患検査（足関節）		
11	その他の疾患の検査		
12	整形外科検査総復習		
13	ケーススタディ（大腿骨頸部骨折）		
14	ケーススタディ（変形性膝関節症）		
15	振り返り・まとめ		
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b> 標準整形外科学 理学療法評価学 実習はジャージ等、実技が行える服装で臨むこと。</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> 試験 80点、平常点 20点（出席 5点、授業態度 5点、小テスト 10点） 計 100点 60点以上合格</p>	

授業概要			
科目名 理学療法評価学実習 I	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 23	時間数 45	学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 理学療法評価のひとつ徒手筋力検査法について、意義・目的と実技を学ぶ。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 各関節の運動の筋力検査を学生同士で実践しながら学ぶ。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 肩甲骨，上肢および下肢の徒手筋力検査法を実施することができる。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション，徒手筋力検査法の目的		
2	徒手筋力検査法（上肢）		
3	徒手筋力検査法（上肢）		
4	徒手筋力検査法（上肢）		
5	徒手筋力検査法（上肢）		
6	徒手筋力検査法（上肢）		
7	徒手筋力検査法（上肢）		
8	徒手筋力検査法（上肢）		
9	徒手筋力検査法（上肢）		
10	徒手筋力検査法（肩甲骨）		
11	徒手筋力検査法（肩甲骨）		
12	徒手筋力検査法（肩甲骨）		
13	徒手筋力検査法（肩甲骨）		
14	徒手筋力検査法（肩甲骨）		
15	徒手筋力検査法（肩甲骨）		
16	上肢・肩甲骨の実技試験		
17	上肢・肩甲骨の実技試験		
18	徒手筋力検査法（下肢）		
19	徒手筋力検査法（下肢）		
20	徒手筋力検査法（下肢）		
21	徒手筋力検査法（下肢）		
22	徒手筋力検査法（下肢）		
23	徒手筋力検査法（下肢）		
24	徒手筋力検査法（下肢）		
25	徒手筋力検査法（下肢）		
26	下肢の実技試験		
27	下肢の実技試験		
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b> 新・徒手筋力検査法 第9版 協同医書出版社 実 習を行える服装で臨むこと。（Tシャツ，ハーフパンツ）</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> 実技試験 80点，平常点 20点 計 100点 60点以上合格</p>	



授業概要			
科目名 理学療法評価学実習Ⅱ	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 23	時間数 45	学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b> 理学療法評価のひとつ徒手筋力検査法について、意義・目的と実技を学ぶ。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b> 各関節の運動の筋力検査を学生同士で実践しながら学ぶ。</p> <p><b>[授業終了時の達成課題（到達目標）]</b> 肩甲骨，上肢および下肢の徒手筋力検査法を実施することができる。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	徒手筋力検査法（頸・体幹）		
2	徒手筋力検査法（頸・体幹）		
3	徒手筋力検査法（頸・体幹）		
4	徒手筋力検査法（頸・体幹）		
5	徒手筋力検査法（頸・体幹）		
6	姿勢観察1		
7	姿勢観察2		
8	姿勢観察3		
9	動作観察1		
10	動作観察2		
11	動作観察3		
12	動作観察4		
13	動作観察4		
14	姿勢動作観察からの評価項目抽出		
15	統合と解釈のまとめ方		
16	理学療法評価法の復習および確認①		
17	理学療法評価法の復習および確認②		
18	理学療法評価法の復習および確認③		
19	理学療法評価法の復習および確認④		
20	OSCE①		
21	OSCE②		
22	OSCE③		
23	OSCE④		
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b> 新・徒手筋力検査法 原著 理学療法評価学 実習が行える服装（短パン，Tシャツなど）を準備すること。</p>		<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b> 実技試験で6割以上を合格とする</p>	

授業概要			
科目名 運動療法学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>            運動療法学は理学療法のもっとも大きな柱として位置づけられている。            また、治療医学・リハビリテーション医学においても不可欠な領域として存在している。在宅における理学療法にあっても運動療法の背景となる基礎知識と技術は当然求められる。            また、経験則ではなく世界で求められている EBM・EBP を正しく理解し実施するという基本的課題についても真摯に取り組む必要がある。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>            理学療法の礎となるべく、運動療法の基礎の理解を、経験則ではなく世界で求められている EBM・EBP を正しく理解し実施する。小テストや復習テストを採り入れていく。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b>            運動療法各論を行う前提として知っておかなければならない基本・基礎分野を正確に理解し説明できる。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	運動療法学総論		
2	筋の構造と機能		
3	興奮収縮連関		
4	筋張力の調節		
5	関節構造と機能①		
6	関節構造と機能②		
7	関節運動のバイオメカニクス		
8	関節可動域運動①		
9	関節可動域運動②		
10	筋力増強運動①		
11	筋力増強運動②		
12	筋持久力増強運動①		
13	筋持久力増強運動②		
14	筋持久力増強運動③		
15	解説・まとめ		
[使用テキスト・参考文献] 標準理学療法学 運動療法学 総論		[単位認定の方法及び基準] 試験 80点, 平常点 20点 (授業態度 10点, 課題 10点) 計 100点 60点以上合格	

授業概要			
科目名 理学療法治療学Ⅰ（中枢Ⅰ）	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 中枢神経系の復習とともに脳血管疾患により引き起こされる障害を理解する。脳血管疾患患者の状態の理解及び治療法について学ぶ</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 本講義では、脳血管疾患の理学療法について解剖などの基礎知識から一般的な治療までを学ぶ。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 脳血管疾患の理学療法の一般的な評価から治療を計画できる。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	中枢神経系の解剖 1		
2	中枢神経系の解剖 2		
3	随意運動のしくみ		
4	脳損傷の定義と病態		
5	脳の損傷と回復		
6	急性期リハビリテーション		
7	回復期リハビリテーション		
8	片麻痺の肩の管理（スリング含む）		
9	脳卒中の基本動作		
10	片麻痺の歩行		
11	運動失調と評価・訓練		
12	脳卒中の ADL		
13	脳卒中片麻痺の装具		
14	高次脳機能障害と評価		
15	解説・まとめ		
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b> 脳卒中最前線 ベッドサイドの神経の診かた 機能解剖で斬る神経系疾患 その他、必要に応じて資料を配布する。</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> 授業態度 5% 出席状況 5% 期末試験 90% 60%以上合格</p>	

授業概要			
科目名 理学療法治療学Ⅱ（中枢Ⅱ）	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>            リハビリテーションとは機能回復の病態生理学的原理解を深め、発展させ、洗練しようとする1つの過程であり、それ自体は疾患ではなく固有の疾患も存在しない。神経学的リハビリテーションとは神経疾患の原則をこの過程に応用して機能を再建することにある。            原疾患の経過と本質とを理解する。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>            原疾患の理解を踏まえ、人間の活動や行動にきわめて重要な役割を果たす運動療法の思考過程や技術の理解を深める。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b>            理想的な治療指標と適用手段を選定した運動療法の選定と、種々の治療的要素の統合ができることを目標とする。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	SCI 総論		
2	SCI 症候		
3	SCI 合併症①		
4	SCI 合併症②		
5	SCI の評価		
6	SCI の理学療法①		
7	SCI の理学療法②		
8	神経変性疾患		
9	PD 概論		
10	PD の症候		
11	PD の評価		
12	SCD 概論		
13	SCD の評価		
14	PD・SCD の理学療法		
15	解説・まとめ		
[使用テキスト・参考文献] 講義資料配布		[単位認定の方法及び基準] 試験 80点, 平常点 20点 (授業態度 10点, 課題 10点) 計 100点 60点以上合格	

授業概要			
科目名 理学療法治療学Ⅲ（小児）	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
<b>【授業の目的・ねらい】</b> 小児理学療法に関する基礎的な内容を理解する			
<b>【授業全体の内容の概要】</b> 子どもの正常発達を理解し、それに基づき障害児との違いを考え障害児の評価、プログラムの立案、評価のポイントを学ぶ			
<b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 正常運動発達について理解している 代表的な疾患について理解している			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	小児リハの総論		
2	正常発達		
3	正常発達		
4	原始反射		
5	原始反射		
6	原始反射		
7	脳性麻痺の特徴		
8	脳性麻痺の特徴		
9	脳性麻痺の評価		
10	脳性麻痺の評価		
11	脳性麻痺の治療		
12	神経筋疾患の総論（筋ジストロフィーを中心に）		
13	神経筋疾患に対する理学療法		
14	その他の小児疾患総論		
15	小児理学療法の振り返り・定期試験解説		
<b>【使用テキスト・参考文献】</b> 小児理学療法学テキスト／南江堂		<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 試験により評価する。60点以上合格。	

授業概要			
科目名 理学療法治療学Ⅳ（内部障害理学療法）	授業の種類	授業担当者	
	講義・実習		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 理学療法士に必要な内部障害理学療法について学習する。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 基本的な内部障害疾患の病態や理学療法評価について学習する。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 各疾患に対する病態を理解し、リスク管理を考慮した理学療法プログラムの立案ができることを到達目標とする。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	内部障害理学療法学総論		
2	心臓リハビリテーション総論		
3	心電図		
4	運動耐容能		
5	心臓リハビリテーションⅠ		
6	心臓リハビリテーションⅡ		
7	心臓リハビリテーションⅢ		
8	代謝障害・再発予防		
9	糖尿病の理学療法		
10	呼吸リハビリテーションⅠ		
11	呼吸リハビリテーションⅡ		
12	呼吸リハビリテーションⅢ		
13	がんリハビリテーション		
14	腎疾患と理学療法		
15	まとめ		
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b> ビジュアルレクチャー 内部障害理学療法</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> 試験 80 点，平常点 20 点（出席 10 点，課題・小テスト 10 点）計 100 点 60 点以上合格</p>	

科目名 理学療法治療学Ⅴ（スポーツ）	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
<b>【授業の目的・ねらい】</b>			
我が国におけるスポーツ活動は多様化し、様々な目的をもってスポーツに取り組む人々が増加している。スポーツ医療に伴い、理学療法士が活動をする場所と機会も増してきており、社会的な期待も大きくなっている。			
<b>【授業全体の内容の概要】</b>			
スポーツ選手や愛好家に対する「スポーツ理学療法」の概略を紹介する			
<b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b>			
上肢・下肢の代表的なスポーツ外傷（急性外傷，慢性外傷）への理学療法について実技も含めて習得する			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	スポーツ理学療法学概論①		
2	スポーツ理学療法学概論②		
3	膝関節のスポーツ外傷1－急性外傷①		
4	膝関節のスポーツ外傷1－急性外傷②		
5	膝関節のスポーツ外傷2－慢性外傷①		
6	膝関節のスポーツ外傷2－慢性外傷②		
7	足関節・足部のスポーツ外傷①		
8	足関節・足部のスポーツ外傷②		
9	研究所にて実習①（動作分析，筋力測定）		
10	研究所にて実習②（動作分析，筋力測定）		
11	研究所にて実習③（運動療法，補装具療法）		
12	研究所にて実習④（運動療法，補装具療法）		
13	肩のスポーツ外傷①		
14	肩のスポーツ外傷②		
15	課題学習		
<b>【使用テキスト・参考文献】</b> アスリートのリハビリテーションとリコンディショニング（上・下巻）		<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 出席状況，レポートによる総合判定．60点以上合格．	

授業概要			
科目名 理学療法治療学 VI (整形外科)	授業の種類	授業担当者	
	講義・実習		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 運動器障害に対する理学療法を行う上で必要な疾患・病態を学び、理学療法の基本的手技を習得する</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 運動器障害の説明、その障害に対する評価と治療方法を実習を交えながら行っていく</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 運動器障害の理解とその障害に対する評価と治療方法について考えることができる</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	組織再生・修復		
2	関節リウマチ①		
3	関節リウマチ②		
4	末梢神経損傷①		
5	末梢神経損傷②		
6	頸部疾患①		
7	頸部疾患②		
8	腰部疾患①		
9	腰部疾患②		
10	脊椎の手術①		
11	脊椎の手術②		
12	側彎症		
13	骨端症		
14	ケーススタディ		
15	振り返り・まとめ		
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b> 標準整形外科学 実習はジャージ等、実技が行える服装で臨むこと</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> 試験 90点, 平常点 10点, 計 100点 60点以上合格</p>	



授業概要			
科目名 理学療法治療学実習 I	授業の種類	授業担当者	
	実習		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 理学療法の治療に必要な関節可動域運動を、解剖学・運動学的観点から理解し、実施できることを目的とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 各関節の構造を理解し、正しい運動方向を理解しながら、実技を中心に行っていく。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 各関節の可動域運動を実施できることを目標とする。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション		
2	関節可動域運動 上肢①（肩関節）		
3	関節可動域運動 上肢②（肩甲帯）		
4	関節可動域運動 上肢③（肘・手関節）		
5	関節可動域運動 上肢④（指関節）		
6	関節可動域運動 下肢①（股関節）		
7	関節可動域運動 下肢②（膝関節）		
8	関節可動域運動 下肢③（足関節）		
9	関節可動域運動 体幹①（頸部）		
10	関節可動域運動 体幹②（腰部）		
11	疾患別関節可動域運動 整形外科疾患		
12	疾患別関節可動域運動 中枢疾患		
13	疾患別関節可動域運動 その他疾患		
14	関節可動域運動 禁忌事項について		
15	まとめ 総復習		
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b> 理学療法評価学 金原出版 実技練習の際は、Tシャツ、ハーフパンツに着替えること</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> 出席 50 点，授業態度 50 点 計 100 点 60 点以上合格</p>	

授業概要			
科目名 理学療法治療学実習Ⅱ	授業の種類	授業担当者	
	実習		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> ストレッチは理学療法治療手技のひとつである。ストレッチの目的・対象となる組織を理解した上で、実技を学ぶ。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 対象となる組織を確認し、その対象に応じたストレッチ方法を学び、学生同士で実際にストレッチを行う。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 治療の対象となる組織をイメージし、適切なストレッチング方法を導き出し、実施することができる。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	ストレッチとは		
2	頸・体幹1		
3	頸・体幹2		
4	頸・体幹3		
5	上肢1		
6	上肢2		
7	上肢3		
8	上肢4		
9	下肢1		
10	下肢2		
11	下肢3		
12	下肢4		
13	検査からストレッチまでの流れ1		
14	検査からストレッチまでの流れ2		
15	検査からストレッチまでの流れ3		
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b> 使用せず 実習が行える服装（短パン，Tシャツなど）を準備すること。</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> 授業態度にて判断する。 60点以上合格。</p>	

授業概要			
科目名 理学療法治療学実習Ⅲ	授業の種類	授業担当者	
	講義・実習		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 整形外科疾患の病態を理解し，理学療法士としての基本的な治療技術を学習することを目的とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 各疾患の病態を説明し，必要な評価や治療法を実技を交えて講義をする。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 各疾患の病態を理解し，適切な評価と治療が選択できることを目標とする。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション		
2	骨折について①		
3	骨折について②		
4	脱臼について		
5	肩関節周囲炎①		
6	肩関節周囲炎②		
7	肩関節の外傷		
8	変形性股関節症①		
9	変形性股関節症②		
10	変形性膝関節症①		
11	変形性膝関節症②		
12	膝関節靭帯・半月板損傷		
13	足関節捻挫・肉離れ		
14	ケーススタディー		
15	まとめ 総復習		
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b> 標準整形外科学 実技練習の際は，Tシャツ，ハーフパンツに着替えること</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> 試験 80点，平常点 20点（出席 10点，授業態度 10点） 計 100点 60点以上合格</p>	

授業概要			
科目名 理学療法治療学実習Ⅳ	授業の種類	授業担当者	
	実習		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
<b>【授業の目的・ねらい】</b> 各種マッサージ療法の理解し、各筋に対するマッサージの実施及び肢位の選択を学ぶ			
<b>【授業全体の内容の概要】</b> 筋の位置・厚さ・走行などの違いによるマッサージの方法を学ぶ			
<b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 筋の位置・厚さ・走行などの違いを考慮し適切なマッサージができる。			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	マッサージ療法とは		
2	筋のとらえ方1		
3	筋のとらえ方2		
4	筋のとらえ方3		
5	マッサージ療法 腰背部1		
6	マッサージ療法 腰背部2		
7	マッサージ療法 頸部・肩甲帯1		
8	マッサージ療法 頸部・肩甲帯2		
9	マッサージ療法 上肢1		
10	マッサージ療法 上肢2		
11	マッサージ療法 下肢1		
12	マッサージ療法 下肢2		
13	マッサージ療法 下肢3		
14	評価からマッサージ療法の流れ1		
15	評価からマッサージ療法の流れ2		
<b>【使用テキスト・参考文献】</b> テキストは使用せず 参考文献 骨格筋の形と触察法 日本人体解剖学 実習が行える服装（短パン、Tシャツなど）を準備すること。		<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 授業態度にて判断する。 60点以上合格。	

授業概要			
科目名 義肢装具学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数	時間数	学年・時期	必修・選択
15	30	2年・前期	必修 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 理学療法の中で必要とされる、装具についての知識について理解を深める。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> テキストに沿った装具学全般の講義（パワーポイントにて）、及び臨床現場における理学療法士にとって重要と思われるチェックポイントについて解説を行う。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 装具の名称、機能についての理解を得る。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	装具学 テキスト（P1～15） 総論		
2	装具学 テキスト（P17～47） 足底装具		
3	装具学 テキスト（P17～47） 靴型装具		
4	実習 足底装具・靴型装具作製の際の採型（トリシヤム・フットプリンター）		
5	装具学 テキスト（P49～62） 下肢装具総論		
6	装具学 テキスト（P62～84） 短下肢装具		
7	装具学 テキスト（P90～96） 膝装具		
8	装具学 テキスト（P84～89、96～105） 長下肢装具、股装具、免荷装具 他		
9	装具学 テキスト（P105～113） 先天性内反足装具 他（小児疾患の装具）		
10	装具学 テキスト（P117～138） 体幹装具		
11	装具学 テキスト（P138～146） 側弯症装具		
12	装具学 テキスト（P149～198） 上肢装具①		
13	装具学 テキスト（P149～198） 上肢装具②		
14	装具学 まとめ 及び 試験対策		
15	試験解説		
[使用テキスト・参考文献] 「装具学 第4版」 医歯薬出版（株）		[単位認定の方法及び基準] 定期試験 60点以上で合格	

授業概要			
科目名 義肢装具学実習	授業の種類	授業担当者	
	講義・実習		
授業の回数	時間数	学年・時期	必修・選択
15	30	2年・後期	必修 必修
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b> 義肢の種類・構造・機能・使用目的・適応を理解し処方・適合判定ができるようになる。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b> 義足・義手の現物を見ながら知識を深める。</p> <p><b>[授業終了時の達成課題（到達目標）]</b> 義肢の種類・構造を理解する。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	義肢学総論		
2	義肢の分類		
3	足部について		
4	下腿義足		
5	下腿義足：アライメント		
6	大腿義足		
7	大腿義足：アライメント、膝継手		
8	異常歩行について		
9	義足リハビリについて		
10	その他義足		
11	義手について		
12	テスト解説		
13	採型実習		
14	適合実習		
15	試験解説		
[使用テキスト・参考文献] 「装具学」 「義肢学」		[単位認定の方法及び基準] 定期試験 60 点以上合格	

授業概要			
科目名 物理療法学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 近年我が国に於ける理学療法は、臨床・研究さらには教育の分野においても運動療法に主眼がおかれている状況にある。理学療法における物理療法の位置づけを学び、解剖学・物理学・生理学・病理学・障害学・医療社会学などの科学的知見に立脚したバランスのとれた理学療法士の育成に努める。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 各種物理療法を臨床でどのように適用し、どのように活かしていくかを、その有効性とリスク管理の面から最適なインターベンションを図るすべを理解する必要がある。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 理想的な治療指標と適用手段を選定し、治療プログラムへ組み込むことによって、リハビリテーション治療計画に適切な物理療法と種々の治療的要素の統合ができる。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	物理療法総論		
2	代謝・循環障害		
3	熱伝導様式		
4	温熱療法①		
5	温熱療法②		
6	水治療法		
7	極超短波療法		
8	電気刺激療法		
9	牽引療法		
10	超音波療法		
11	機器実習		
12	発表①		
13	発表②		
14	発表③		
15	解説・まとめ		
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b> 標準理学療法学 物理療法学 第4版</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> 試験 60点, 平常点 40点 (授業態度 10点, 課題 15点, 発表 15点) 計 100点 60点以上合格</p>	

授業概要			
科目名 物理療法学実習	授業の種類	授業担当者	
	実習		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 物理療法は、歴史的経緯から見てもともと理学療法自体の原型であった。時代と共に理学療法の対象が運動障害を呈する疾患に変遷していく中で、物理療法は幾分軽視される傾向にあった。しかし近年、その重要性が見直され物理療法に関連した研究も徐々に活性の度合いを増している。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> グループを構成、各々実習課題を設定し実習に取り組む。実際に生体の生理学的反応の体感をし、理解を深める。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 物理療法の有効性、リスク管理の面から最適なインターベンションを適用するための判断能力を身につけること、ならびに種々の治療的要素の統合ができることを目標とする。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション		
2	グループワーク		
3	事前実習①		
4	事前実習②		
5	実習①		
6	実習②		
7	実習③		
8	実習④		
9	実習⑤		
10	実習⑥		
11	補習実習①		
12	補習実習②		
13	発表①		
14	発表②		
15	解説・まとめ		
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b> 標準理学療法学 物理療法学</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> 試験 60点, 平常点 40点 (実習態度 15点, 課題 15点, 発表 10点) 計 100点 60点以上合格</p>	



授業概要			
科目名 日常生活活動学	授業の種類	授業担当者	
	講義・実習		
授業の回数	時間数	学年・時期	必修・選択
15	30	2年・前期	必修 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> ADLの概念や範囲，また国際障害分類，国際生活機能分類との関連性について学習し，理学療法におけるADLの位置づけについて理解を深める。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> ADLの概念や範囲，また評価法について説明する。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> ADLの範囲と項目について理解する．理学療法の過程におけるADLの位置づけについて理解する。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	講義：ADLの概念と範囲		
2	講義：ICIDH，ICFにおけるADLの位置づけ		
3	講義：ADL評価法Ⅰ		
4	講義：ADL評価法Ⅱ		
5	講義：ADL評価法Ⅲ		
6	実習：歩行補助具Ⅰ		
7	実習：歩行補助具Ⅱ		
8	実習：歩行補助具Ⅲ		
9	講義：疾患別ADLⅠ		
10	講義：疾患別ADLⅡ		
11	講義：疾患別ADLⅢ		
12	講義：疾患別ADLⅣ		
13	講義：疾患別ADLⅤ		
14	講義：疾患別ADLⅥ		
15	振り返り・まとめ		
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b> 理学療法学テキストⅤ 日常生活活動（ADL）実習はジャーナリズム等，実技が行える服装で臨むこと。</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> 試験 90点，平常点10点（出席） 計100点 60点以上合格</p>	

授業概要			
科目名 日常生活活動学実習	授業の種類	授業担当者	
	実習		
授業の回数	時間数	学年・時期	必修・選択
15	30	2年・後期	必修 必修
<b>【授業の目的・ねらい】</b> 日常生活活動の概念などの基礎知識と日常生活活動評価方法、各疾患に対する日常生活活動練習の実施方法を習得する。			
<b>【授業全体の内容の概要】</b> 食事・入浴・更衣・排泄・整容・起居移動動作の分析および練習方法・介助方法について実習を行う。			
<b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 疾患別に必要となる日常生活活動の選択と適切な練習方法ならびに介助方法が習得できる。			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	疾患別日常生活活動実技①		
2	疾患別日常生活活動実技②		
3	疾患別日常生活活動実技③		
4	疾患別日常生活活動実技④		
5	疾患別日常生活活動実技⑤		
6	車椅子概念		
7	車椅子の構造と種類		
8	車椅子の処方とメンテナンス		
9	入浴・更衣・排泄動作実習①		
10	入浴・更衣・排泄動作実習②		
11	車椅子実習①		
12	車椅子実習②		
13	移乗動作実技①		
14	移乗動作実技②		
15	解説・まとめ		
<b>【使用テキスト・参考文献】</b> 日常生活活動学テキスト		<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 試験 80点, 平常点 20点 (授業態度 10点, 実技 10点) 計 100点 60点以上合格	

授業概要			
科目名 理学療法治療学演習 I	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 30	時間数 60	学年・時期 3年・後期	必修・選択 必修
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b> 臨床実習で学んだ理学療法治療技術について学習する.</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b> 理学療法治療技術について学習する.</p> <p><b>[授業終了時の達成課題（到達目標）]</b> 理学療法士に必要な治療技術について理解することができる.</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15	臨床実習で担当した患者様の症例の治療について		
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b> 使用テキストはなし</p>		<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b> 授業参加態度により評価する. 出席 50 点 授業態度 50 点 60 点以上を合格とする</p>	

授業概要			
科目名 理学療法治療学演習Ⅱ	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 30	時間数 60	学年・時期 3年・後期	必修・選択 必修
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b> 臨床実習で学んだ理学療法治療技術について学習する.</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b> 理学療法治療技術について学習する.</p> <p><b>[授業終了時の達成課題（到達目標）]</b> 理学療法士に必要な治療技術について理解することができる.</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15	臨床実習で担当した患者様の症例の治療について		
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b> 使用テキストはなし</p>		<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b> 授業参加態度により評価する. 出席 50 点 授業態度 50点 60 点以上を合格とする</p>	

授業概要			
科目名 臨床理学療法 I	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 30	時間数 60	学年・時期 3年・後期	必修・選択 必修
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b> 解剖学，運動学，運動療法学，理学療法評価学，理学療法治療学などの講義で学んだ知識を応用し，学生同士の実習を通じ各種治療手技の基礎をしっかりと習得することを目標とする。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b> PTに必要な治療手技を習得する</p> <p><b>[授業終了時の達成課題（到達目標）]</b> 各種治療手技の習得</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15	学生間での実習を通じて学習する		
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] 授業参加態度により評価する 出席 50点 授業態度 50点 60点以上を合格とする	

授業概要			
科目名 臨床理学療法Ⅱ	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 30	時間数 60	学年・時期 3年・後期	必修・選択 必修
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b> 国家試験の合格を目標に、学習スタイルの見直し、基礎三科目（解剖学、運動学、生理学）、専門分野等、しっかり知識を身につける。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b> グループワークにてスケジュールに沿って実施</p> <p><b>[授業終了時の達成課題（到達目標）]</b> 国家試験の合格レベルに達する</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15	理学療法士に必要な知識を身につける		
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] 試験（国家試験レベル）6割以上を合格とする	

授業概要			
科目名 地域理学療法学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 我が国に理学療法士が誕生して 50 年余りが経過し、疾病構造の変化や少子高齢社会への進展、障害を持つ人々に対するリハビリテーションのあり方や障害者福祉も大きく変化してきた。リハビリテーション医療も病院や施設から在宅にその比重を移し、地域社会を基盤としたリハビリテーション・サービスのシステム化が厚生労働省の施策として推進されている。こうした動きと呼応して理学療法も病院や施設内から在宅に、そして地域社会に根ざした取組みが求められてきている。疾病構造の変化や人口構造の転換により新たな医療ニーズを生起させ、治療方法や医療供給体制の変革を理解する。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 地域リハビリテーションの概念ならびにその構造を理解すると共に、その中で理学療法の果たすべき役割や責務を明確にし最適なインターベンションを図る術の理解に努める。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> 地域リハビリテーションにおける医療・福祉制度を理解し、地域において理学療法士の果たすべき役割や責務を明確にすることを目標とする。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション		
2	地域理学療法の概念		
3	地域リハビリテーションを支えるシステム		
4	地域理学療法の展開・評価・連携①		
5	地域理学療法の展開・評価・連携②		
6	地域理学療法の法制度①		
7	地域理学療法の法制度②		
8	地域理学療法の法制度③		
9	介護保険制度		
10	社会資源		
11	福祉用具		
12	住宅改修		
13	地域包括ケアシステム①		
14	地域包括ケアシステム②		
15	解説・まとめ		
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b> 使用せず 必要に応じて配布資料あり</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> 試験 80 点，平常点 20 点（授業態度 10 点，課題 10 点） 計 100 点 60 点以上合格</p>	

授業概要			
科目名 生活環境学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数	時間数	学年・時期	必修・選択
15	30	2年・前期	必修 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>            私たちを取り巻く環境にはさまざまな要因があるが、その中でも生活環境は暮らしていくうえで大きくかかわってくる問題である。訓練室での動作のみでなく、自宅で過ごす上でより良い生活をおくるには何をしていくべきかを理学療法士の視点からとらえ、そのための法律および制度の理解と実際の環境整備を考えていく。また生活環境を整えるということは、その人の身体、精神、家族構成などさまざまな状態を把握していなければならない為、総合的評価ができるようことを最終的な目的とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>            理学療法士として、リハビリテーションを施行する際に関わる機器及び諸制度を把握し、障害・疾患別の環境整備を整えるための知識・考え方を得る。</p> <p><b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b>            リハビリテーション関連機器及び生活環境整備に必要な機器を理解し、長所・短所ならびにその適応について説明ができる</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	生活環境学とは		
2	必要な環境とは		
3	環境整備について（日常生活上の留意点）		
4	住環境関連法律と制度		
5	環境整備に必要な建築関連法規 建築図面のルールと読み方		
6	福祉用具・リハビリテーション機器		
7	障害・疾患別環境整備(1)		
8	障害・疾患別環境整備(2)		
9	住環境整備と実践と事例(1)		
10	住環境整備と実践と事例(2)		
11	公共の場での環境		
12	学校周辺のバリアフリー状況(1)		
13	学校周辺のバリアフリー状況(2)		
14	発表		
15	解説・まとめ		
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>            理学療法学テキストX 生活環境論</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>            試験 60点,            平常点 40点            （出席 10点, 授業態度 10点, 課題 10点, 小テスト 10点）            計 100点 60点以上合格</p>	



授業概要			
科目名 臨床実習Ⅰ（見学）	授業の種類	授業担当者	
	実習		
授業の回数	時間数	学年・時期	必修・選択
	45	1年・後期	必修 必修
<b>【授業の目的・ねらい】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域での病院・施設の役割やリハビリテーション部門の概略を理解する。</li> <li>・社会や医療の中における理学療法の責任を理解する。</li> <li>・患者様や指導者・スタッフのコミュニケーションのとりかたを学ぶ。</li> <li>・社会人・職業人としての目を養い、心を養う。</li> <li>・理学療法士になることへの動機づけを高め、以後の学習への意欲を高める。</li> </ul>			
<b>【授業全体の内容の概要】</b>			
<b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	1年次の所定の科目を履修した学生は学年末に45時間を1施設で実習する。 デイリーノートと感想文の提出を求める。 実習報告会を行う。 ＊対象者様と接する実習であるため、「甘え」は禁物である。全ての行為・言動に責任が伴うことを自覚すること。対象者様および施設より与えていただいた学習の機会を最大限活用すること。		
【使用テキスト・参考文献】		<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 実習指導者による評定を基に、実習判定会議にて60%以上の成果をもって合格とする。	

科目名 臨床実習Ⅱ（評価）	授業の種類	授業担当者	
	実習		
授業の回数	時間数 135	学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
<b>【授業の目的・ねらい】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業で学んだ知識・技術を実習指導者の下で実際に症例に応用する。</li> <li>・ 評価の一連の流れを習得する。</li> <li>・ 症例の身体機能、精神機能、生活機能を様々な角度から分析し、問題を把握する。</li> <li>・ 医療人・職業人としての目を養い、心を養う。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 患者様や指導者・スタッフのコミュニケーションのとりかたを学ぶ。</li> <li>・ 社会人・職業人としての目を養い、心を養う。</li> <li>・ 理学療法士になることへの動機づけを高め、以後の学習への意欲を高める。</li> </ul>			
<b>【授業全体の内容の概要】</b> <b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	<p>2年次の所定の科目を履修した学生は、学年末に135時間を1施設で実施する。            検査記録の提出を行う。実習報告会を行う。            ＊実習前に、検査測定法を完璧に記憶し反復練習をしておくこと。</p> <p>（注意）            対象者様と接する実習であるため、「甘え」は禁物である。全ての行為・言動に責任が伴うことを自覚すること。対象者様および施設より与えていただいた学習の機会を最大限活用すること。</p>		
【使用テキスト・参考文献】		<b>【単位認定の方法及び基準】</b> 実習指導者による評定を基に、実習判定会議にて60%以上の成果をもって合格とする。	

科目名 臨床実習Ⅲ－１・２（臨床）	授業の種類	授業担当者	
	実習		
授業の回数	時間数 315	学年・時期 3年・前期	必修・選択 必修
<b>【授業の目的・ねらい】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価実習の経験を生かし、対象者様の全体像をとらえ目標設定をおこない、実習指導者の指導の下で理学療法プログラムを立案、実施する。</li> <li>・対象者様との交流を通して、生活の視点を養う。</li> <li>・リハビリテーションチームのあり方を学ぶ。</li> <li>・専門職・社会人として責任のある態度・講堂がとれるようになることを目指す。</li> <li>・患者様や指導者・スタッフのコミュニケーションのとりかたを学ぶ。</li> <li>・社会人・職業人としての目を養い、心を養う。</li> <li>・理学療法士になることへの動機づけを高め、以後の学習への意欲を高める。</li> </ul>			
<b>【授業全体の内容の概要】</b>			
<b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	<p>2施設で、315時間の実習をおこなう。</p> <p>ケースレポート、発表用のレジюмеなどの提出を行う。</p> <p>実習報告会を行う。</p> <p>＊実習前に、検査測定法を完璧に記憶し反復練習をしておくこと。</p> <p>（注意）</p> <p>対象者様と接する実習であるため、「甘え」は禁物である。全ての行為・言動に責任が伴うことを自覚すること。対象者様および施設より与えていただいた学習の機会を最大限活用すること。</p>		
<b>【使用テキスト・参考文献】</b>		<b>【単位認定の方法及び基準】</b>	
		<p>実習指導者による評定を基に、実習判定会議にて60%以上の成果をもって合格とする。</p>	